

貝塚市の基金（貯金）について

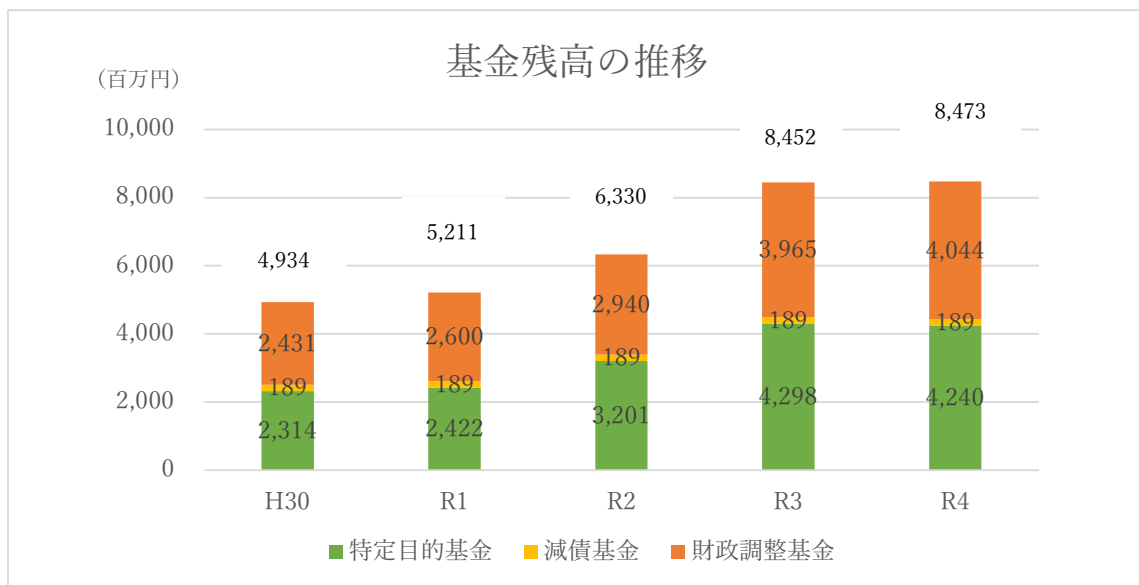
市の基金には大きく分けて次の3種類があります。

1つ目が財政調整基金で、市の財政状況に余裕がある年には積み立て、財源が不足する年には取り崩します。財源を調整するための貯金です。

2つ目が減債基金で、臨時的な大きな市債の償還の際に取り崩します。償還財源を確保するための貯金です。

3つ目が特定目的基金で、公共施設等の整備等、市の条例で定めた特定の目的を計画的に実施するための貯金です。

市の基金残高の推移を下のグラフで示します。



平成30年度以降、基金残高は増加傾向にあります。特に令和3年度は、普通交付税の増加等により実質収支が黒字となったため財政調整基金に積み立てしたこと、財産収入などを、公共施設の老朽化に対応するため特定目的基金に積み立てたことにより大きく増加しました。

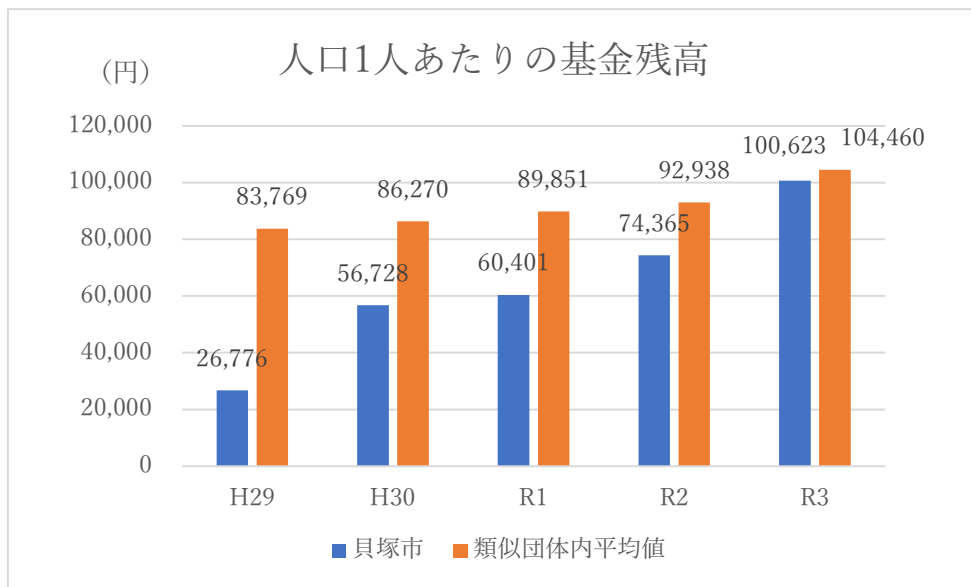
ポイント

市は決算で赤字が見込まれる場合、財政調整基金を取り崩して、歳入が歳出以上になるように調整します。

よって、財政調整基金の増減が市の決算を見る一つの目安となります。

貝塚市の基金（貯金）について

貝塚市の基金が多いか少ないかの判断目安として、市民一人あたりの基金残高を類似団体内平均値と比較したものを下のグラフで示します。類似団体内平均値とは、人口及び産業構造等により全国市町村を35のグループに分類した中で、同じグループに属する団体の平均値を言います。



平成29年度から令和3年度にかけて人口1人あたりの基金残高が増加しています。これは30年度に財産売却等収入等で増加したこと、令和3年度に黒字額を基金に積み立てたことが要因です。依然として類似団体内平均値と比べて低い状況にありますが、その差は減少しています。

ポイント

財政調整基金は、景気の悪化による税収の減少や、災害対応等の想定外の支出のために積み立てておく必要があります。しかし、積み立て続けると、税収に見合った行政サービスを行えていないと言えるため、積み立てと取り崩しで偏った運用をしないことが望ましいとされています。